

～市民がつくる～

三木市男女共同参画センター情報誌



こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
～しようよの組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ

第60号 2022・春

春号のテーマは
「働く」

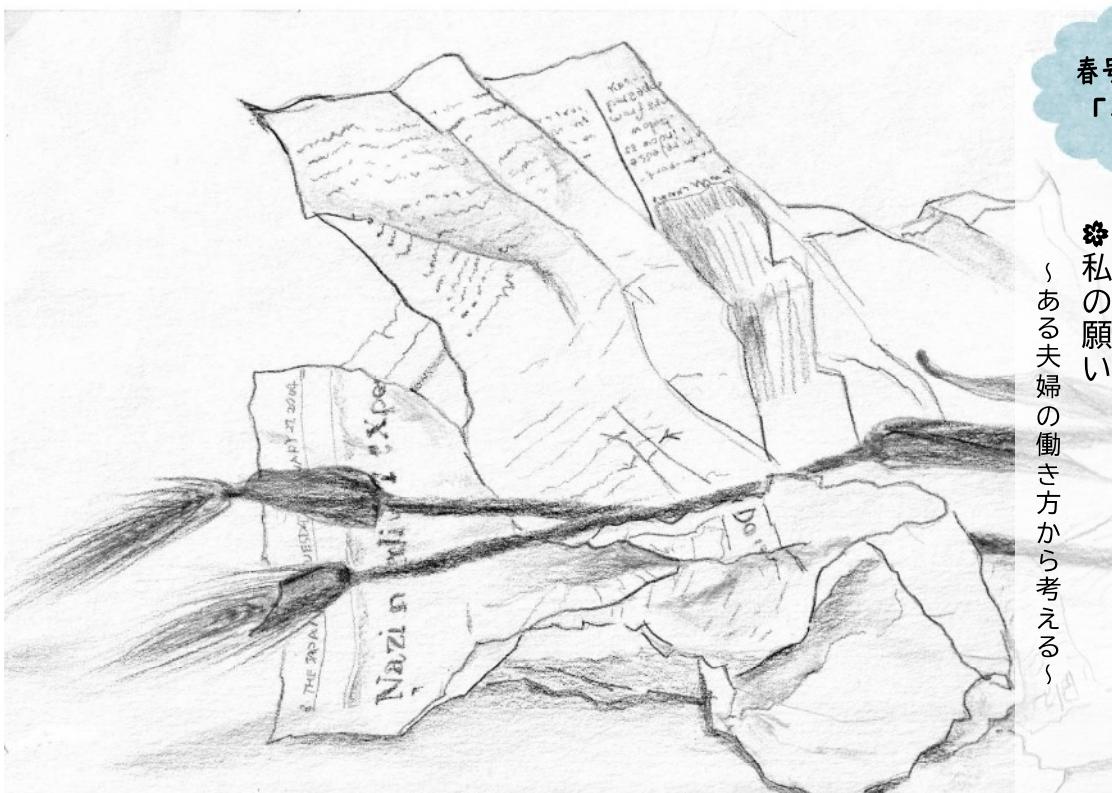
✿主婦の底力！

✿「辞書を編む」受講レポート

✿僕の主夫日記

✿私の願い

～ある夫婦の働き方から考える～



男女共同参画週間記念講演会

日時：令和4年7月2日(土)13時30分～15時

場所：三木市立教育センター4階 大研修室

申込2次元コード

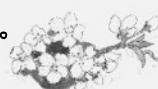


演題：「地域づくりにおける男女共同参画」

講師：竹安 栄子さん(京都女子大学 学長)



毎年6月23日から6月29日は男女共同参画週間です。
令和4年度のキャッチフレーズは“「あなたらしい」を築く、「あたらしい」社会へ”です。
この期間、市役所正面玄関にて啓発パネル展を開催します。
ぜひ、お立ち寄りいただき、ご高覧ください。





主婦の底力！

共働き世帯が専業主婦世帯の割合を上回る現在。女性が勤務先で評価され出世することも徐々に増えてきているように思いますが、女性の活躍は「職場」でしか評価されないものでしょうか？

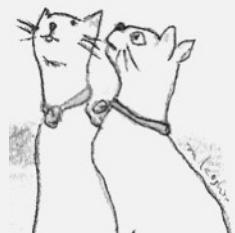
家庭内の家事や育児、介護などをメインの役割として担う主婦の方々が、実は社会に大きな影響力をもっているという事例を私はたくさん見聞きしてきました。

50年ほど前に「着色料を使わないタラコを販売してほしい」という主婦の声を受け、当時としては珍しい「無着色のタラコ」がある生協の店頭に並んだのは有名な話。食品の安全や子ども達の健康、教育に関しては、主婦業がメインの方々の力によって支えられてきたものもたくさんあるように思います。

身近な話では、自分自身子育て中はたくさんの地域のボランティアさんに支えられてきました。親子の居場所となるような「ひろば」の運営や、絵本の読み聞かせ、ファミリーサポートの協力など、思い返してみるとたくさんの主婦の皆さんのお世話になっていました。また、地域や自治会の仕事をしたり、学校のPTA等で実働部隊となるのは、やはり主婦たちであるように思います。

「食」「健康」「子育て」など、毎日の生活そのものがメインフィールドの主婦だからこそ、その大切さを社会に訴えたり、地域のために時間を使ったりできるのだと思うと、「収入を得る」ことだけが「働く」ではなく、社会貢献や日々の生活を支えることも、立派な「働き方」です。

主婦の底力、まさに縁の下の力持ち！（編集委員 A）



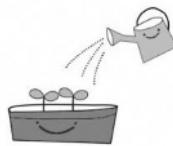
♦♦*♦* 「辞書を編む」受講レポート *♦*♦*♦*♦*♦*♦*♦*♦*



去る3月5日、三木市男女共同参画セミナー「辞書を編む～ジェンダーの視点から国語辞典を見直して～」を受講してきました。「考える辞書」として定評のある「新明解国語辞典」の最新の改訂（第八版）は2020年で、その際ジェンダー平等の観点から様々な見直しがあったことを知りました。

例えば「あいあい傘」は、「1本の傘を（相愛の）男女が一緒に差すこと」の「男女」が「二人」に変更。「ふにゃふにゃ」の用例が「ふにゃふにゃした男性」から「ふにゃふにゃした返事」に変更。LGBTなどへの理解や性別役割分担意識からの解放が進む中、辞書の解説や例文も変化していることが分かりました。

また、講師によれば「辞書はその時代を記録する」のだそうです。「新明解国語辞典」では、かつてはこうだったという過去の解釈も、古い書籍を読む際には必要になるので、〔 〕をつけて解説しているとのこと。お手持ちの辞書を手に取って、ジェンダーの視点が取り入れられているかどうか確認してみるのも楽しいかもしれませんね。（編集委員 A）



僕の主夫日記



初めまして「主夫」歴13年、*アラ還男の「フミヒロ」です。

多くの家庭では、晩ごはんの準備や後片付けは妻の仕事ではないでしょうか？僕の家では、買い物、調理、片付け等は僕の仕事です。

「主夫」の日常の中から、どうでも良くてめんどくさい「アラ還男の普通」を紹介します。*概ね60歳の男性の意

朝6時半、「主夫」の一日は洗濯から始まります。まずは空模様をチェックしてから洗濯機をスイッチオン。妻に一声かけて、朝ごはんの準備です。

妻が起きてきて、自分のお弁当を作ります。一緒に朝食をとり、妻を送り出します。台所の片付け、ごみ出し、洗濯物干し、部屋を片付けたら部下のロボット掃除機の出番です。掃除が終わったら部屋を元に戻して、早ければ9時頃から、在宅ワークの時間です。

長年、金物関係の工場へ勤めながら「兼業主夫」をしていました。数年前、新しい仕事の準備のため、会社勤めを辞めてほぼ「専業主夫」の生活に変わりました。自分の時間が増えて自由なはずなのに、周りの人の目が気になって、平日の昼間は近所の人と会いたくないなあとっていました。よく考えたら、昭和世代の僕は、外で働いていないことは恥ずかしいと思い込んでるのでしょうか。

料理もわずかなメニューを繰り返していましたのですが、ある時から夕食食材の宅配を使うことになりました。宅配で届く食材には、写真入りのレシピが付いているのですが、大さじ小さじって何？いちょう切りって何？の状態。写真を見て「たぶんこうだろう」という形に野菜を切ります。調理しても、火の通った食材、火の通っていない食材があるし…人参、大根に火が通りにくいなんて知らなかつたのです。高校時代、われわれ男子が柔道をしている間に女子は家庭科でこんなことを学んでいたのですね。

おっと、個人的なお話をしている間にお昼です。「主夫」の食事は、昨日の晩ごはんからの取り置きです。仕事の都合に合わせて、早めに食べたり、遅く食べたり。この日は、仕事の写真を撮るので、すこし早めのお昼ごはんでした。

午後からは仕事の続きです。パソコンに向かって1時間ほど仕事をして、その後町内で写真撮影。出かけたついでに晩ごはんの買い物もします。今ではあまり気になりませんが、ほぼ女性ばかりのスーパー・マーケットでの買い物は、妻が悪く思われないか？と自分で勝手に思っていました。

3時ごろから4時ごろが洗濯物の取り込みタイムです。同時に、お風呂の用意と、晩ごはんのお米の用意です。

それから6時ぐらいまで仕事をして、買い物、晩ごはんの準備、晩ごはん、片付けをして、ちょっとゆっくりして、お風呂に入ったら一日は終わりです。おやすみなさい！

ここまで読んで、夫は在宅ワークと家事をしているのに妻は仕事だけしていいのかと感じた方は、妻と夫の立場を置き換えて読んでみてください。

最後までお付き合いくださいありがとうございました。これからもしばらく、紙面に登場させていただきます。いろいろなシチュエーションで「主夫」の日常を紹介できたらと思います。楽しみにしていただけたら幸いです。（編集委員 I）

私の願い～ある夫婦の働き方から考える～

私は銀行の正社員として働いています。家電販売店で働く中間管理職の夫、小1の長男と、3歳の長女の4人家族でマンション住まい。そんな私たちのある日を紹介します。

【PM5:30】

私は勤務を終えて駅から自転車に乗り、学童と保育所に子どもたちのお迎えへ。途中スーパーに寄ってお買い物。家に着いたら、家事をしながら子どもたちに明日の用意をさせ、3人で夕食をとる。スーパーのお惣菜やレトルトを活用することが多い。

【PM10:00】

長女がたくさん話すので、なかなか長男の話を聞いてあげられないと思いつつ、10時前には子どもたちを寝かしつける。

子どもたちが寝静まった頃、夫からメールが届く。「11時半ごろに帰る」

職場に欠員ができていることもあります。閉店後の後始末や明日の準備などで遅くなってしまう。キャバオーバーは長時間労働で乗り越えるというような社風もあるのかもしれません。

【PM11:00】

夫の夕食の用意をして、私は明日に備えて寝る。

【AM5:30】

翌朝キッチンへ行くと、夫はテーブルに突っ伏して寝てしまっている。夕食は食べたみたい。

少しでも長く寝られるよう、静かに朝食と長女のお弁当を作る。

夫は忙しすぎて食生活も不規則だ。脂肪肝と診断されたこともあるし、身体のことがとても心配。

【AM6:00】

夫が目を覚まし、出勤の準備を始める。起きてきた長女が一言、「パパ、おかえり～」。(夫が今帰ってきたものと勘違い。)

【AM7:20】

夫出勤。

【AM7:50】

私と長男、長女が家を出発する時間。そういえば長男はもう2日もパパの顔を見ていない。

この生活をなんとか続けていられるのは、夫も私も週に休みが2日あるからだ。加えて私の職場は子育てに理解があり、コロナで保育所が休園になったときもその都度仕事を休むことができた。

家族みんながそれぞれの身体を大切にして、一緒に過ごす時間がもてる、そんな働き方がどんな職場でも実現することを願っている。(編集委員K)

三木市男女共同参画センター 愛称”こらぼーよ“

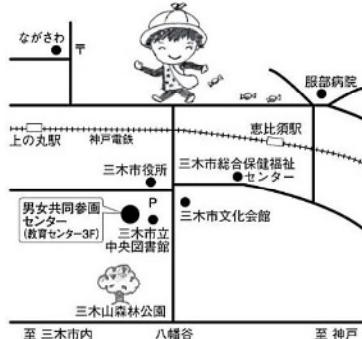
三木市福井 1933-12
三木市立教育センター3階
TEL&FAX: 0794-89-2331
開館日時: 月曜~金曜9時~17時
(※祝日を除く)

こらぼーよ 三木市



ホームページからもご覧いただけます

企画・編集:情報誌こらぼーよ編集グループ
発行:三木市男女共同参画センター



✿ 編集後記 ✿

中3と小3の子どもがいました。2人ともベビースイミングをしていました。上の子の時はパパが一緒にプールに入ることを珍しがられましたが、下の子の時はパパの姿がちらほら。子育てに参画するパパがこれからも増えていけばいいなと思います。(編集委員:I)